

年を重ね
はじめる
清々しい暮らし



ダイニングキッチンは無垢材のテーブルセットと壁面木パネルをアクセントにホワイトペグレイでまとめ、温かみと明るさを演出したキッチンカウンター収納は、次女のお菓子作り、父のコーヒーを淹れる母の料理盛り付けなど、作業をする近くに収納を設けている。さらに毎週末の鍋料理用、パソコン作業用のコンセントを作った「食べるのが大好き」な家族の要望が詰まった収納計画をした。



キッチン壁面はハンドメイドのタイルがアクセントになっている。シンクの手元灯と飾り棚は北欧ブランドから選んだ。

手前キッチン・ダイニングと奥リビングを程よく仕切るスリット格子。光と風が抜ける清々しい空間となった。



造作ヘッドボードは調光機能付きのライン照明が、アクセントクロスを柔らかに照らす。マットレスは夫婦それぞれのクッション性を選んだ結果、腰痛持ちの母が改善した。



主寝室は就寝とクローゼットスペースに二分。既存の収納扉を撤去し、棚やパイプを付け、目隠しにスクリーンを使った。



アクセントクロスは、ジムトンプソンのポーター柄と壁紙で広さを演出。また将来のために、左右壁に手すり用下地を入れた。

奥行511mmの洗面カウンターは特注サイズで製作。家族分のオープン棚は各自管理をする計画。ミラーを収納扉にも付け、広さを演出した。

●コンセプト

「家族の暮らし」と向き合い『収納』と『動線』のあり方を4年かけアドバイスからリフォーム計画まで行った。キッチン、カウンター『収納』を中心に朝食とお弁当の調理・盛り付け・コーヒー淹れなど家族が同時に作業しやすい『動線』計画をした。主寝室は、あふれていた服・小物のゾーニングを明確にして整理しやすい『収納』をクローゼットに設けた。間取り変更は最小限に「収納を整理することで動線が変わる暮らし」を実現した。

●施主（クライアント）の要望

築23年木造戸建のリフォーム
60代夫婦+30代次女の3人暮らし。
「家でリラックスしたことがない」と初見で話した施主（母）の唯一の要望は『毎日、清々しい生活がしたい』だった。家族の清々しい生活に必要なインテリア要素は3つと考えた。

①統一感とポイントがあるカラーコーディネート

既存の床・ドアの色を活かす、配色を全部屋意識した。さらに新築時、父が「家族のこれからの道」をイメージし購入した絵の色から、各部屋のポイントカラーを選んだ。

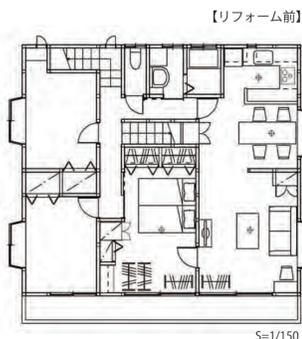
②掃除が楽になる素材選び

キッチン・洗面など、傷と汚れやすい収納家具はメラミン材を使用。各部屋のポイントに無垢・突板材を選び、素材のメリハリをつけた。また軽く移動ができるチェア、洗えるファブリックを選んでいる。

③生活動線がスムーズな収納計画

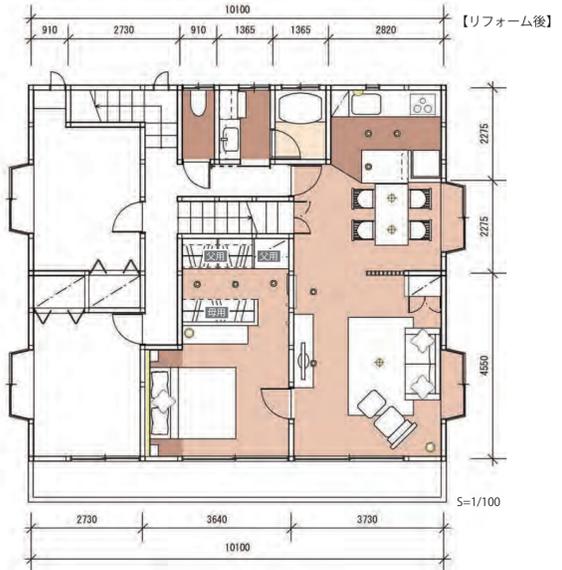
各部屋でする事、使う物の整理から収納の配置とサイズを決めた。特にキッチン・ダイニングの家事動線、主寝室クローゼットの外出・帰宅動線は、動線に出し入れ楽な収納を計画した。

●概算予算 1,150万円



【リフォーム前】

S=1/150



【リフォーム後】

S=1/100

リフォーム前の各部屋



【ダイニングからキッチンを見る】暗く閉鎖した印象のキッチンは、並んで作業ができなかった。

【ダイニングとリビングを見る】部屋を大きく仕切る壁は、暗く窮屈な食卓になっていた。

【主寝室】服と書類・本があふれ、夫婦の物が一緒くたになっていた。

【洗面室】壁一面の収納が狭さを感じさせる。

【トイレ】白でまとまり、ほやけた印象だった。

【トイレ】白でまとまり、ほやけた印象だった。

多色のリトグラフは、新築時に父が購入したものの各部屋のアクセントカラーは、この絵を参考に選んだ。



・カウンター収納位置をテープで示し、施主とイメージ共有。・盛りをするカウンター引出しは、弁当を包む袋や箸を収納。シンク横の収納は水切りカゴに食器を置きやすくするために開き扉をつけた。

日常使いの食器を並べ収納サイズを検討した。